

(51)Int.Cl.⁸ 識別記号

A 4 5 C 13/26

13/22

F I

A 4 5 C 13/26

13/22

K

B

請求項の数 1 (全 3 頁)

(21)出願番号 実願平5-9414

(22)出願日 平成5年(1993) 3月8日

(65)公開番号 実開平6-66352

(43)公開日 平成6年(1994) 9月20日

審査請求日 平成9年(1997) 2月25日

(73)実用新案権者 000132895

株式会社タカイシ

東京都荒川区東日暮里4丁目31番2号

(72)考案者 高石 浩正

東京都荒川区東日暮里4丁目31番2号株式会社タカイシ内

(74)代理人 弁理士 大橋 弘

審査官 蓮井 雅之

(56)参考文献 実開 平2-127214 (J P, U)

実開 昭57-71419 (J P, U)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁸, D B名)

A45C 13/22

A45C 13/26

A45C 13/38

(54)【考案の名称】 把手装置

(57)【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 把手パイプを下降させたときに突き当たる突き当たり部及びこの突き当たり部から真直ぐに上昇して突き当たり且つ係合する中段係合部及びこの中段係合部から一旦下降し、下降方向に対して直角方向に係合部との係合がはずれるように移動し、再び上昇し、やがて突き当たって係合する上段係合部から成るガイド溝を形成して成るガイド部材と、四角形に折り曲げて形成した把手パイプの下端側を前記ガイド溝内に係合させて成る把手装置。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本考案は、カバン、ショッピングカー等に取り付けられる把手装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来のカバン、ショッピングカー等に取り付けられている把手の場合、固定式のものと伸縮式のものがある。このうち、伸縮式のものは、押し込んだときカバン内に把手パイプが入り込み、引き出したときは把手パイプの長さだけ長くなるため、引いて歩くのに便利である。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】 しかし、上記伸縮式の場合、把手を押すと独りでに引っ込んでしまい、注意しないと把りの部分とカバンで手を挟んでしまうという危険がある。これを防止するために、引き出したときに把手パイプを止めるように金具のついたものもあるが、この金具付の場合にはいちいち行う操作が面倒である。

【0004】 本考案の目的は、操作が簡単で、然も二段に伸縮して使用できる把手装置を提案することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本考案に係る把手装置の構成は次のとおりである。

【0006】把手パイプを下降させたときに突き当たる突き当たり部及びこの突き当たり部から真直ぐに上昇して突き当たり且つ係合する中段係合部及びこの中段係合部から一旦下降し、下降方向に対して直角方向に係合部との係合がはずれるように移動し、再び上昇し、やがて突き当たって係合する上段係合部から成るガイド溝を形成して成るガイド部材と、四角形に折り曲げて形成した把手パイプの下端側を前記ガイド溝内に係合させて成る把手装置。

【0007】

【作用】把手は、そのまま下方に押し込むと、パイプの下端はガイド溝に沿って下降し、やがて一番下の突き当たり部に突き当たって止まる。この状態が把手を一番引っ込めた状態である。そして、把手をそのまま引き上げると、パイプの下端が中段係合部に突き当たり、止まる。この状態が中間の把手の長さである。次に、把手を少し下に押し込んで中段係合部から離し、下端を少し持ち上げるように把り側を下げると、下端が中段係合部から外れるので、そのまま引き上げると上段係合部にパイプの下端が突き当たる。この状態が最も把手を長くした状態である。

【0008】

【実施例】図1～図4に本考案の実施例を示す。1はスキーバッグ、2は移動輪、3は把手装置にして、この把手装置3は図2に示すように、把手4、把手パイプ5、ガイド部材6、及びこのガイド部材6に形成された把手パイプ5を下降させたときに突き当たる突き当たり部7及びこの突き当たり部7から真直ぐに上昇して突き当たり且つ係合する中段係合部8及びこの中段係合部8から一旦下降し、この下降方向に対して直角方向に係合部との係合がはずれるように移動し、再び上昇し、やがて突き当たって係合する上段係合部9から成るガイド溝10から成る。

【0009】把手4は、そのまま下方に押し込むと、把

手パイプ5の下端5'はガイド溝10に沿って下降し、やがて一番下の突き当たり部7に突き当たって止まる。この状態が把手を一番引っ込めた状態である(図2参照)。そして、把手4をそのまま引き上げると、把手パイプ5の下端5'が中段係合部8に係合し、止まる。この状態が中間の把手の長さである(図3参照)。次に、把手4を少し下に押し込んで中段係合部8から離し、下端5'を少し持ち上げるように把手5側を下げると、下端5'が中段係合部8から外れるので、そのまま引き上げると上段係合部9に下端5'に係合する。この状態が最も把手を長くした状態である(図4参照)。

【0010】

【考案の効果】本考案は以上のように、把手4は二段階の伸縮ができて便利であると共に中段から外して上段に引き上げる場合は、単に把手側を操作(動かす)だけで簡単に行うことができる。又、ガイド部材6は簡単に製作し、これをカバン、バッグ、ショッピングカー内に組み込むだけのため、コスト的にも有利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案に係る把手装置を取り付けたバッグの斜視図。

【図2】把手を一番下まで引っ込めた状態の説明図。

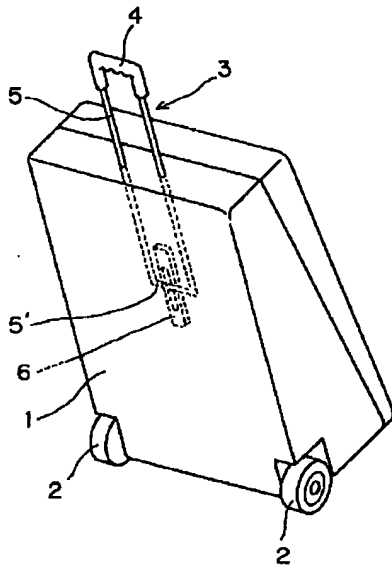
【図3】把手を中段まで引き上げた状態の説明図。

【図4】把手を上段まで引き上げた状態の説明図。

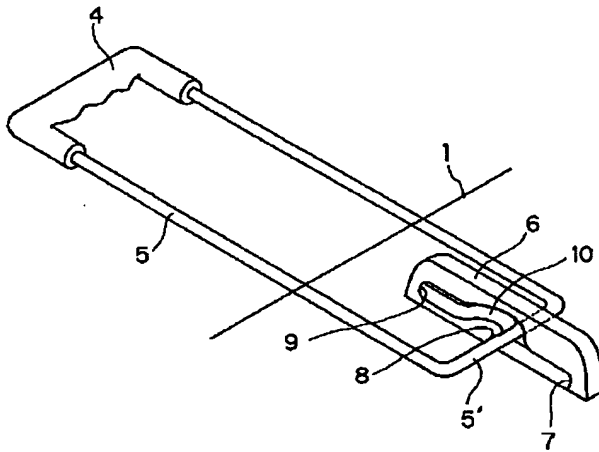
【符号の説明】

- 1 バッグ
- 2 車輪
- 3 把手装置
- 4 把手
- 5 把手パイプ
- 5' 下端
- 6 ガイド部材
- 7 突き当たり
- 8 中段係合部
- 9 上段係合部
- 10 ガイド溝

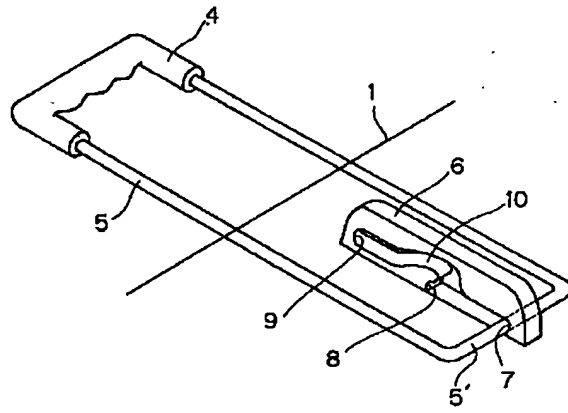
【図1】



【図3】



【図2】



【図4】

